

2/28

裁判員経験者との意見交換会を行いました。

東京地方裁判所

「評議のあるべき姿とそのために必要な審理」をテーマに、裁判員等経験者4名にお越しいただき、法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）から意見や感想、気になったことなどを伺う意見交換会を行いました。

●全般的な感想

想像が付かず不安な気持ちもあったが、参加してみて、分かっていることを一つ一つ積み上げて話し合いを進めて判断することが理解でき、思っていた以上に真剣に向き合うことができた。

専門的な内容についていけないのではと思っていたが、参加してみて、裁判員に求められているのは、一市民の常識と照らし合わせて考えることだと分かり、当初のイメージより参加のハードルは低いと感じた。



職場に裁判員経験者の方がいて、とてもいい経験になるから行っておいで、と言ってくれた。今後部下が選ばれることがあったら、同じように言ってあげたい。

●選任手続について

初日に審理計画を丁寧に説明してもらい、法廷や評議室等も見学できたので、イメージを持って帰ることができた。

選任初日に、裁判官から、審理に向けて特別な準備は必要ない、と言ってもらえたのはありがたかった。



月末、月初で仕事が忙しい時期だったが、事前にスケジュールが送付されていたので職場にも説明がしやすかった。

●審理や評議の進め方について

休憩時間もこまめに設定されており、全体として適切な審理スケジュールだったと思う。



複雑な事案では事案や争点を理解するために、冒頭陳述と証拠調べとの間に長めの休憩があると良いかもしれない。

論告は時系列を踏まえて整理されており、弁論は評議で議論してほしいポイントが明示されているなど、どちらにも良い点があったので、双方を併用して上手く議論が進んだ。

評議では、裁判官が発言しやすい空気を作りつつ、一つの事実に様々な角度から光を当てるような質問をしてくれたので、気付きもあったし、安心して意見を言えた。

●今後の裁判員裁判に望むこと

裁判員制度に関心はあるけれど、具体的に何をするのか分からず漠然とした不安があるという人は多いと思うので、選ばれた場合にどのような経験をするのかという具体的なイメージを持てるようにすると参加しやすくなるのでは。

守秘義務について、自分も裁判長から説明を受けるまでは裁判員を経験したことも話せないと思っていたし、誰にも何も話してはいけないと勘違いしている人が周りに多いので、その点の誤解が解ければ参加のハードルが下がるのではないかと思います。



裁判所ナビゲーター さいたん

皆様からいただいた貴重な御意見、御感想を、今後の裁判員裁判の運営に生かしていきたいと思っております。お忙しい中、ありがとうございました。

司会：中尾 佳久裁判官